

平成 24 年度決算報告書



平成 25 年 5 月 30 日

報道各位

株式会社エフエム東京

平成 24 年度業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や公共投資に支えられ、緩やかな回復傾向が見られた一方で、欧州債務問題の深刻化や中国経済の減速等の影響により、先行きが不透明のまま推移いたしました。広告市場においても、第1四半期までは震災の影響を受けた前年同時期に比べ顕著な回復が見られましたが、アジア情勢に対する懸念が強まった夏以降は、広告主に慎重な姿勢が目立ち、急速に停滞感が広まりました。第4四半期以降は各種の景気対策等に対する期待感から株価上昇や円安が進み、景気持ち直しの兆しが見られたものの、広告費については本格的な回復には至りませんでした。

このような状況の中、当社グループでは、各社が収支構造の見直し等に取り組んだ結果、当連結会計年度の売上高は、182 億9千万円(前期比 0.7%増)、営業利益は 12 億2百万円(前期比 9.2%増)、経常利益は 12 億9千7百万円(前期比 24.0%増)、当期純利益は6億4千8百万円(前期比 33.9%増)となりました。

当社単体の業績につきましては、クライアントの業種拡大等の戦略的な営業展開によるシェアの拡大を図るとともに、徹底したコストコントロールに引き続き取り組んだ結果、売上高が 145 億7千1百万円(前期比 3.8%増)、営業利益が 10 億7千2百万円(前期比 11.5%増)、経常利益が 12 億1千万円(前期比 21.2%増)、当期純利益が7億円(前期比 61.2%増)となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社は、「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の実践を放送活動の基軸とし、「優しさと思いやりと温かみのある番組作り」に継続して取り組んでおります。

東日本大震災以降、平成24年度も継続的に、被災地の復興を願う様々な企画を実施しました。中でも、被災地に医療チームや子供のための読み聞かせチームなどを継続的に現地派遣している「ヒューマンケア・プロジェクト」はギャラクシー賞報道活動部門奨励賞を受賞、原発事故により散り散りになった福島の高校の卒業生たちが、番組の呼びかけで1年後に母校で卒業式を挙げた企画「もうひとつの卒業式」はギャラクシーラジオ部門優秀賞を受賞、さらには、山下達郎が自らプロデュースした復興を祈念する特別番組が、放送文化基金優秀賞と出演者賞を同時受賞するなど、「ヒューマンコンシャス」を理念とする当社の姿勢が一層の理解を得ております。震災2年目にあたる2013年3月11日には、特別番組「LOVE & HOPE ～あの人に届けたい2年目の春だより」を放送。FM仙台、FM福島、FM岩手3局と連携し、被災者の2年間の苦闘と復興への強い信念・期待を綴った手紙の数々を紹介した他、渡辺貞夫が励ましの想いをこめてサクソの生演奏をしました。また人気ラジオドラマ「あ、安部礼司」(日曜17:00～17:55 全国ネット)は、これまでの復興支援企画が大きな反響を呼び、ドラマの主人公・安部礼司と刈谷勇という架空の人物が、岩手県知事より「希望郷いわて文化大使」にも任命されています。

10 月改編では、被災地の大量の瓦礫を利用して岩手から福島までの海岸沿いに遠大な森を育て、津波に対する防潮堤を築こうという「瓦礫を生かす森の長城プロジェクト」と連携。レギュラー番組「いのちの森～voice of forest」(日曜 7:30～7:55 全国ネット)を編成し、同プロジェクト理事長 細川護熙元首相とともに、森を育て自然と生きるライフスタイルを提案するなど、復興支援企画を更に拡大して取り組んでいます。また、漢字の成り立ちをショートストーリーで紹介する「感じて漢字の世界」(土曜 6:50～7:00 全国ネット)をスタート。漢字文化の奥深さを、

名ナレーター山根基世氏の語りによる音像表現でお送りしているのを始め、映画「おくりびと」の脚本家で放送作家の小山薫堂氏とともに、全国各地の伝統文化や物産を応援するプロジェクトを発足。象徴となる全国ネット番組「ジャパモン」(日曜 13:00～13:55)を編成しました。

世界を感動させたロンドンオリンピック開催期間は、連日、日本人選手の活躍を中心とした速報体制を組み、特に男女サッカーについては決勝トーナメント以降の日本戦実況中継を実施しました。また、平日ワイド番組のパーソナリティを現地に派遣し、注目競技や選手をめぐる新情報、知られざるロンドンの素顔など臨場感溢れる生放送を実施しました。

当社は若者の未来へエールを送る企画の充実を常に目指しています。9月南アフリカで開催された世界最長5,000kmを走破するソーラーカーレース「サソール・ソーラーチャレンジ」に当社プロデューサーを派遣。3連覇を目指す東海大学チームの熱い挑戦を、全国ネット番組やfacebookで連日レポートし、日本の若者たちが夢に立ち向かう情熱と苦闘の姿を伝えました。また、グローバル時代を生きる日本の若者に自信と誇りを持ってもらうために、JFN38局が実施する企画「FMフェスティバル2012 未来授業～明日の日本人たちへ」。3年目を迎えた今回は、分子生物学者福岡伸一氏、歴史学者北川智子氏、解剖学者養老孟司氏、日本文学者ロバート・キャンベル氏などが講師となり、「世界の中のニッポン～自らの立ち位置の確認」をテーマに、未来を担う大学生たちと熱い討論を展開しました。この模様は11月3日に全国ネット特別番組として放送。講義のノーカット完全版ビデオポッドキャスト配信では、過去3回のシリーズ総計で、1,100万ダウンロードを達成しました。

平成24年12月16日に投票が行われた第46回衆議院議員総選挙および東京都知事選挙に向け、投票2週間前より期間限定で、ステーションネームを「TOHYO FM＝投票FM」と変更、人気アニメキャラクター「鷹の爪団」とのコラボレーションキャンペーン「若者よ 投票に行くんじゃー！」を展開。放送やインターネット等で、当社のコア・ターゲットであるM1・F1層に向け、若者の声を政治に反映させようと呼びかけ、大きな話題となりました。

当社はこれまでも中継局の設置等エリア内の受信環境の改善に常に取り組んで参りましたが、2月11日には、東京タワーの頂上部333mに新たに設置した送信アンテナからの放送をスタートしました。従来より100m以上高く、かつ高性能なアンテナから発射する電波により受信環境は大きく改善され、エリア内各所の聴取者から「聴きやすくクリアになった」とのコメントが多数寄せられました。

一方、IPサイマル配信においては、従前からの「radiko」、「LISMO WAVE」に加え、平成23年12月には「ドコデモFM」をスタートさせ、順次機能強化を継続。現在では国内のほぼ全てのスマートフォンで「ドコデモFM」のサービスが受けられるようになっております。地下鉄内での聴取も可能となり順調にユーザー数を伸ばしており、通信・放送融合時代の「新たな聴取スタイル」が広く定着しつつあります。

「V-Low マルチメディア放送」に関しては、平成25年3月、日本民間放送連盟加盟ラジオ局全社が足並みをそろえての参入は見送りとなりましたが、その後、総務省は改めて、既存ラジオ局以外の企業も含めた広範囲に「V-Low マルチメディア放送」への参入希望調査を開始、4月24日に締め切りました。当社は、JFN系列を中心とした全国FM局、既存放送事業者以外の企業とともに今後も引き続き新たなデジタル放送「V-Low マルチメディア放送」の実現を目指してまいります。

<企画・制作事業活動>

「アースコンシャス～地球を愛し感じるこころ」をテーマに毎年4月に実施しているアースデーコンサートは、さいたまスーパーアリーナで「EARTH×HEART LIVE 2012」と銘打ち開催、フィッシュマンズとサカナクションによる共演は、JFN38局のみならず、6カ国語で海外放送局およびUstreamを通じて世界に発信されました。

8月に開催し、グリーン・デイ、リアーナ、ジャミロクワイ、ももいろクローバーZなど国内外の

人気アーティストが参加した「SUMMER SONIC 2012」では、3日間で約13万5千人を動員。また、番組「SCHOOL OF LOCK!」発10代ミュージシャン限定のロックイベント「閃光ライオット」は、ミュージシャンへの登竜門として定着し、5周年を迎えた今回も、全国から1万組を超える出場応募が寄せられました。9月に実施した日比谷野外音楽堂での決勝大会では、予選を勝ち抜いた若手バンドたちの演奏が満席の聴衆を熱狂させました。

当社理念「ヒューマンコンシャス」の新たな試みとして、日本の良質な音楽をライブでアジアに届けたいという想いのもとに、文化イベントによる相互理解の促進を目的とした「LIVE 直送 from TOKYO FM」プロジェクトをスタート。台湾の放送局 UFO FM と連動し、台湾の人気ライブハウスで、ASIAN KUNG-FU GENERATION(11月)、一青窈(12月)のライブを成功させました。1月には韓国でのライブも実現し、大きな反響を得ました。

この他にも、「渡辺貞夫 X'mas LIVE」(12月)、「夢の第九コンサート」(12月)など多彩なイベントを実施。3月には、番組「JET STREAM」(月～金曜 24:00～24:55 全国ネット)を舞台空間で再現するイベント「JET STREAM LIVE」をサントリーホールにて開催、現機長大沢たかおが4代目機長伊武雅刀との競演を果たし、話題を集めました。

当社が「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の一環として平成22年から展開しているHelloSmile(子宮頸がん予防啓発プロジェクト)では、4月と11月にライブコンサートを実施、プロジェクトに賛同したベッキー、倉木麻衣らが予防啓発を呼びかけました。5月には、国連人口基金(UNFPA)とのグローバルパートナーシップ締結を発表し、多くのメディアで取り上げられました。

また、映画事業においては、人気漫画を原作とした「宇宙兄弟」、高倉健主演の「あなたへ」、ベストセラー小説の映画化「のぼうの城」、吉永小百合主演「北のカナリアたち」、山田洋次監督が小津安二郎の名作「東京物語」を基に作り上げた「東京家族」など、大作・話題作が公開され多くの共感を得ました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、携帯電話をめぐる事業環境の変化に対応するため、スマートフォン向けアプリやソーシャルゲームの開発強化等の施策に引き続き取り組みました。人気スナック菓子をゲーム化したアプリ「うまい棒をつくろう!」は、iPhone版に続きandroid版もリリース、広告収益を得るサンプルモデルとなりました。また、人気の高い女性向け恋愛シミュレーションゲームの分野において新規コンテンツの開発に重点的に取り組むとともに、新たな試みとして、男性向けカードバトルゲーム「カードプロレスリングDX」を配信しました。今後は様々な収益モデルの開発に、積極的に取り組んでまいります。

この他、企業の販売促進用アプリの開発受託、モバイル・PC向けホームページの受託制作等のソリューションビジネスでも積極的な事業展開を行いました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「JFNセンター」、「メディアセンター」等の賃貸事業を展開いたしました。

<その他の事業活動>

本社および賃貸用オフィスビル内の直営2店舗によるレストラン事業等を展開いたしました。このうち本社ビル内の会員制レストラン「ジェットストリーム」については改装を行い7月にリニューアル・オープンいたしました。

前期比較損益計算書（連結）

平成24年4月1日～平成25年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成25年3月期 (H24. 4. 1～H25. 3. 31)	平成24年3月期 (H23. 4. 1～H24. 3. 31)	前期比
売上高	18,290,989	18,158,849	100.7%
売上原価	11,874,892	11,719,853	101.3%
売上総利益	6,416,096	6,438,995	99.6%
販売費及び一般管理費	5,213,152	5,337,008	97.7%
（内のれん償却額）	128,323	128,323	100.0%
営業利益	1,202,944	1,101,987	109.2%
（売上高営業利益率）	6.6%	6.1%	
営業外収益	165,383	78,429	210.9%
営業外費用	70,808	134,096	52.8%
経常利益	1,297,518	1,046,320	124.0%
（売上高経常利益率）	7.1%	5.8%	
特別利益	—	77,582	—
特別損失	38,381	44,037	87.2%
税金等調整前当期純利益	1,259,137	1,079,866	116.6%
法人税、住民税及び事業税	129,199	△ 163,128	—
法人税等調整額	461,099	738,337	62.5%
少数株主損益等調整前 当期純利益	668,837	504,656	132.5%
少数株主利益	20,370	20,263	100.5%
当期純利益	648,467	484,393	133.9%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

平成24年4月1日～平成25年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	平成25年3月期 (H24. 4. 1～H25. 3. 31)	平成24年3月期 (H23. 4. 1～H24. 3. 31)	前期比
売上高	14,571,131	14,034,497	103.8%
売上原価	9,621,910	9,229,973	104.2%
売上総利益	4,949,220	4,804,524	103.0%
販売費及び一般管理費	3,876,385	3,842,232	100.9%
営業利益	1,072,835	962,291	111.5%
（売上高営業利益率）	7.4%	6.9%	
営業外収益	200,033	126,555	158.1%
営業外費用	62,601	90,128	69.5%
経常利益	1,210,267	998,718	121.2%
（売上高経常利益率）	8.3%	7.1%	
特別利益	—	1,632	—
特別損失	33,835	11,934	283.5%
税引前当期純利益	1,176,431	988,415	119.0%
法人税、住民税及び事業税	98,883	5,140	1923.8%
法人税等調整額	376,799	548,548	68.7%
当期純利益	700,748	434,727	161.2%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(単位:千円)

	平成25年3月期 (H24.4.1～H25.3.31)	平成24年3月期 (H23.4.1～H24.3.31)	前期比
売上高	14,571,131	14,034,497	103.8%
放送事業収入	12,183,259	11,780,155	103.4%
放送収入	8,083,095	8,039,368	100.5%
タイム放送料	5,860,830	5,855,828	100.1%
スポット放送料	2,222,264	2,183,540	101.8%
制作収入	2,030,848	2,007,219	101.2%
その他	2,069,315	1,733,567	119.4%
企画事業収入	1,721,525	1,581,401	108.9%
賃貸事業収入	559,686	558,751	100.2%
その他事業収入	106,660	114,188	93.4%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

48 期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

48 期	47期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	4	東急エージェンシー
5	6	大日本印刷
6	5	ビデオプロモーション
7	11	読売エージェンシー
8	9	オフィスフラッグス
9	13	マッキャンエリクソン
10	21	第一通信社

<タイム>

48 期	47 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	3	アサツー ディ・ケイ
4	4	東急エージェンシー
5	6	大日本印刷
6	10	読売エージェンシー
7	15	第一通信社
8	5	ビデオプロモーション
9	8	オフィスフラッグス
10	9	クオラス

<スポット>

48 期	47 期	広告会社
1	1	電通
2	2	博報堂DYメディアパートナーズ
3	5	アサツー ディ・ケイ
4	6	マッキャンエリクソン
5	4	三晃社
6	9	東急エージェンシー
7	5	放送文化事業
8	8	毎日広告社
9	10	大日本印刷
10	7	クオラス

平成25年3月期決算短信

平成25年5月30日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富木田 道臣

問合せ先責任者(役職名) 執行役員経営企画室長 (氏名) 吉田 乾朗 TEL (03) 3221-0080

定時株主総会開催予定日 平成25年6月27日 配当支払開始予定日 平成25年6月28日

(百万円未満切捨て)

1. 25年3月期の連結業績(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	18,290	0.7	1,202	9.2	1,297	24.0	648	33.9
24年3月期	18,158	0.3	1,101	78.6	1,046	67.8	484	1.4

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
25年3月期	723 78	— —	2.6	3.7	6.6
24年3月期	540 65	— —	2.0	2.9	6.1

(参考) 持分法投資損益 25年3月期 97百万円 24年3月期 △6百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期	35,701	25,573	70.8	28,197 01
24年3月期	35,013	24,856	70.1	27,414 44

(参考) 自己資本 25年3月期 25,262百万円 24年3月期 24,561百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
24年3月期	30 00	60 00	90 00	81	16.6	0.3
25年3月期	60 00	60 00	120 00	108	16.6	0.4
26年3月期 (予想)	60 00	60 00	120 00			

発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期	900,000株	24年3月期	900,000株
② 期末自己株式数	25年3月期	4,057株	24年3月期	4,057株
③ 期中平均株式数	25年3月期	895,943株	24年3月期	895,943株

(参考) 個別業績の概要

1. 25年3月期の個別業績 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期	14,571	3.8	1,072	11.5	1,210	21.2	700	61.2
24年3月期	14,034	7.4	962	66.5	998	79.3	434	3.6

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
25年3月期	778	61	—	—
24年3月期	483	03	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
25年3月期	35,169		26,185		74.5		29,094	97
24年3月期	34,166		25,433		74.4		28,259	29

(参考) 自己資本 25年3月期 26,185百万円 24年3月期 25,433百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、会社法に基づく連結計算書類及び計算書類等の監査手続は終了し、適正である旨の監査報告書を受領しております。

新経営体制のお知らせ

株式会社エフエム東京（本社：東京都千代田区 社長：富木田道臣）は、2013年5月30日開催の取締役会において、新経営体制について、下記の通り内定しましたのでお知らせいたします。

なお、本件は2013年6月27日開催の当社定時株主総会およびその後の当社取締役会を経て正式決定します。

記

1. 新役員体制 ※下線は、新任・昇任・新担当部門

取締役氏名	役職名(新)	担当部門
ふき た みちおみ 富木田 道臣 (昇任)	代表取締役会長	経営全般
ちよ かつみ <u>千代 勝美</u> (新任)	<u>代表取締役社長</u>	経営全般、統合メディア戦略室 (現 経営戦略特別顧問)
からしま なつお 唐島 夏生 (重任)	専務取締役	経営全般、経営企画室、総務局、 <u>マルチメディア放送事業本部</u>
いしい ひろゆき 石井 博之 (重任)	常務取締役	経営全般、 <u>編成制作局</u>
たいら かずひこ 平 一彦 (昇任)	<u>常務取締役</u>	経営全般、営業局、営業局長を委嘱
とう かつゆき 藤 勝之 (重任)	取締役	マルチメディア放送事業本部長を委嘱
かつら やすお 桂 靖雄 (重任)	社外取締役	(パナソニック株式会社代表取締役副社長)
きたじま もとほる <u>北島 元治</u> (新任)	<u>社外取締役</u>	(大日本印刷株式会社常務取締役)
まえだ しん 前田 伸 (重任)	社外取締役	(日本電波塔株式会社代表取締役社長)
まつまえ よしあき 松前 義昭 (重任)	社外取締役	(学校法人東海大学 副理事長)
や の かおる 矢野 薫 (重任)	社外取締役	(日本電気株式会社 取締役会長)

※ 常務取締役の黒坂修は、6月27日開催の当社定時株主総会終結の時をもって任期満了により退任となります(当社グループ会社の役員に就任予定)。

監査役氏名	役職名等
やましな としお <u>山科 敏夫</u> (新任)	<u>常勤監査役</u> (現 ドコモ・サービス株式会社 常務取締役)
いけだ てるひこ 池田 輝彦 (重任)	社外監査役
みぞろぎ しょうたろう 溝呂木 商太郎 (重任)	社外監査役

※常勤監査役の長澤幸一郎は、6月27日の当社株主総会終結の時をもって任期満了により退任となります。

名誉相談役および顧問については、6月27日開催の当社取締役会にて再任予定です。

ごとう わたる 後藤 亘 (再任)	名誉相談役	(東京メトロポリタンテレビジョン株式会社 代表取締役会長)
まつまえ のりお 松前 紀男 (再任)	顧問	(元・当社取締役)

2. 執行役員体制

(1) 執行役員体制(5月1日付) ※下線は、新任および担当変更

執行役員氏名	選任後の役職
よしだ けんろう 吉田 乾朗 (任期中)	執行役員 <u>統合メディア戦略室長</u> 兼 経営企画室長
おおはし あきお <u>大橋 明夫</u> (新任)	執行役員 <u>総務局長</u>
むらかみ まさみつ 村上 正光 (任期中)	執行役員 <u>編成制作局長</u>
たけうち ひでと 武内 英人 (任期中)	執行役員 <u>マルチメディア放送事業本部 副本部長</u>

○ 新社長略歴 千代 勝美 (ちよ かつみ)

生年月日 1947年 5月 26日

学 歴 1970年 3月 早稲田大学政治経済学部卒業

経 歴 1970年 4月 日本航空株式会社 入社
2003年 6月 同社 取締役 国際事業担当
2004年 6月 株式会社 JAL ウェイズ 代表取締役社長
2008年 6月 株式会社 JAL ホテルズ 代表取締役社長
2011年 4月 金沢工業大学大学院コンテンツ&テクノロジー融合研究所
客員教授 (現任)
2011年 6月 当社顧問
2012年 6月 当社経営戦略特別顧問 (現任) 現在に至る